

神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進計画 見直し骨子

「神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進計画」（以下「計画」という。）は、「神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進条例」（以下「条例」という。）第12条第1項に基づき、2009（平成21）年6月に策定し、2012（平成24）年4月、2016（平成28）年1月及び2019年（平成31）年4月に改定を行った。

計画期間中における社会情勢の変化や、新たな経営課題等も踏まえ、2022（令和4）年度を目途に見直しを行うこととしていたことから、2023（令和5）年3月に開催した神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進審議会における意見も踏まえ、次のとおり見直すこととした。

なお、審議会における意見は別紙のとおり。

1 計画見直しの概要

(1) 社会情勢の変化等について（8～9ページ）

計画期間中における社会情勢の変化や新たな経営課題等（以下のア～キ）及び、それに対する県の取組等を追記した。

- ア 少子高齢化、人口減少の加速
- イ 新型コロナウイルス感染症の拡大
- ウ 無利子・無担保融資の返済
- エ 原油・原材料価格の高騰
- オ 脱炭素、カーボンニュートラル、GX（グリーン・トランスフォーメーション）
- カ DX（デジタル・トランスフォーメーション）
- キ デジタル田園都市国家構想

(2) 新型コロナ・物価高騰対策事業について（10～12ページ）

計画策定後に生じた「新型コロナウイルス感染症拡大」「物価高騰」への対策として実施した事業を整理し、追記した。

(3) 数値目標について（14～15ページ）

ア 開業率

「開業」を、企業を設立するだけでなく、副業・兼業や士業、個人商店といった多様な事業のあり方・働き方を含めて、幅広くとらえることもできるため、そのような多様な「開業」のあり方も把握できる指標がないか検討することとした。

イ 黒字企業の割合

2019年度までの実績を踏まえ、2025年度までに50%とすることを引き続き目指

すこととする。

また、令和2年度以降コロナ対策として実施された、様々な協力金・給付金等の影響により黒字となる企業が増えた場合、黒字企業の割合が企業の経営の実態と乖離する可能性があることに留意し、数値の推移を注視することとした。

(4) 取組の基本方向（中柱）、KPI、主な取組の見直しについて

これまでの実績・自己評価や社会情勢の変化等を踏まえ見直した。主な点は以下のとおり。

大柱1 神奈川の未来を支える産業の振興

○中柱2 ロボット産業の育成（20 ページ）

KPI：生活支援ロボットの導入施設数（累計）

目標値を上方修正した。

○中柱3 エネルギー産業の育成（21 ページ）

KPI：HEMS や水素関連などの技術開発・製品開発に関する県の支援件数（累計）

本KPIは見直すこととしているが、具体的な指標については現在検討中。

○中柱4 ベンチャーなどの創出・育成（創業・起業支援）（23 ページ）

「主な取組」を現状に合わせて更新した。

○中柱6 県内企業の海外展開支援や海外との経済交流の促進（25 ページ）

「主な取組」に「食品・酒類等の海外販路開拓の促進」を追加した。

大柱3 生産性の向上を図る攻めの経営の促進

○中柱5 第四次産業革命による新たな産業構造への対応促進（42 ページ）

KPI：（地独）神奈川県立産業技術総合研究所が実施する IoT 技術導入支援件数（累計）

KPI の名称を「デジタル技術支援」に変更した。それに合わせて「主な取組」の内容を更新した。

大柱5 地域の資源を生かし、経済を支える事業活動の促進

○中柱1 地域の資源を生かした産業振興（49 ページ）

KPI：地域産業資源活用事業計画の認定件数（累計）

根拠法（中小企業地域資源活用促進法）が廃止され認定制度がなくなったため、新たなKPI「小田原箱根地方の木製品製造業従事者一人当たり生産額」を設定した。

- 中柱2 まちの賑わいを創出する商業・商店街の振興（50 ページ）
KPI: 県内外から人を引きつけるために魅力を高める取組を行う商店街団体の数（年間）
目標値を上方修正した。
- 中柱3 観光産業の振興（51 ページ）
KPI: 観光消費額総額
観光振興計画の改定に合わせて、2023 年以降の目標値を設定した。

大柱6 働き方改革の促進と人材の育成

- 中柱1 働き方改革の促進（57 ページ）
KPI: 働き方改革セミナー・相談会の参加企業数（累計）
新たな KPI「働き方改革に関連するセミナーへの参加者数」を設定した。
「主な取組」を現状に合わせて更新した。
- 中柱2 多様な人材の確保・育成（ダイバーシティ）（59 ページ）
KPI: 人材の確保に関する充足感（年間）
新たな KPI「県就業支援施設でキャリアカウンセリングを利用した者の就職等進路決定率」を設定した。
「主な取組」を現状に合わせて更新した。
- 中柱3 専門人材の確保・育成（61 ページ）
今後重要となるデジタル人材の確保、副業・兼業について追記した。
「主な取組」にリスキリングの支援を追加した。

2 今後のスケジュール（予定）

- 令和5年9月 見直し後の計画案を常任委員会報告
- 10月 見直し後の計画を公表

令和4年度第1回神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進審議会
意見まとめ

1 神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進計画 評価報告書について

番号	意見	検討結果
1	GDPを上げるためには売上を上げなければならないが、コストを下げる方向に行きかねない。売上を伸ばすためにどうすべきか、という指標があると良い。	今後の施策の参考とさせていただきます。
2	コロナ禍の中、補助金や助成金で黒字になっている企業が多い。どこで黒字と判断するか考えることが重要。	(計画15ページ) 注視すべき視点として計画に追記しました。
3	大柱6・中柱2「多様な人材の確保・育成(ダイバーシティ)」について、指標「人材確保に関する充足感」だけでなく、女性、障害者、外国人、高齢者の活用など、多様な人材をどう育成していくかといった指標、データの記載も検討した方が良い。	(計画60ページ) ご意見を基に、新たにKPIを設定しました。
4	DX、専門人材といっても、高度なことではなく簡単なことで良いので、DXが進んでいない小規模な企業を支援してほしい。	(計画9ページ) ご意見を基に、計画に追記しました。
5	脱炭素化のための専門人材についても、中小企業へのマッチングが求められるのではないかと。	(計画9ページ) ご意見を基に、計画に追記しました。
6	自己評価として「コロナの影響」との記載が多いが、一言でコロナの影響というのではなく、コロナで事業が実施できなかったのか、企業活動が抑えられたという間接的な影響があったのか、どのような影響だったか考えていく必要があるのではないかと。	自己評価の際に参考とさせていただきます。
7	大柱の施策目標である県内総生産はマイナスとなっているが、中柱のKPIは達成できているものが多い。取組と目標がどのように関連するのか、見えにくいという印象を受けた。	計画を総括する上で参考とさせていただきます。
8	自己評価の他に、達成率を記載していただくと良い。	(評価報告書3ページ) ご意見を基に、評価報告書に追記しました。

2 神奈川県中小企業小規模企業活性化推進計画の見直し骨子（案）について

番号	意見	検討結果
1	ア「少子高齢化、人口減少の加速」について、高齢化だけではなく、ダイバーシティ、障害者雇用、人材の確保といったニュアンスを入れていただきたい。	(計画8ページ) ご意見を基に、計画に追記しました。
2	ア「少子高齢化、人口減少の加速」についてキーワードとしては、ダイバーシティ&インクルージョン、多様性と包摂といった、女性、高齢者、外国人、障害者の方が、多様な人たちが生き生きと活躍し、それを包摂できるような社会のあり方といったニュアンスを入れていただくと良い。	(計画8ページ) ご意見を基に、計画に追記しました。
3	コロナ前後で社会情勢が変わっているが、県のGDPをどうやって上げていくのかということが大きな課題。中でも、インバウンドをどう取り組んでいくかということが、地域活性化のために重要。	(計画8ページ) ご意見を基に、計画に追記しました。
4	日本全体で人口が減っているので、外国人の活用が重要。	(計画8ページ) ご意見を基に、計画に追記しました。
5	キ「デジタル田園都市国家構想」について、この構想を大前提として、その他の施策をどのようにここに位置付けていくかということが、県としての戦略、中長期的に計画となるのではないか。	(計画9ページ) ご意見を基に、計画に追記しました。
6	県として個々の事業を実施し呼び掛けるというよりも、このエリアで県としてどのようなことをやっていきたいか、といったことを一歩踏み込んで打ち出していただけると、地域も一緒に連携しやすくなり、中小企業に対して踏み込んだ提案がしやすくなる。	今後の施策の参考とさせていただきます。
7	後継者問題に対して取り組んでほしい。	重点的な取組として大柱4に位置付けていますが、引き続き注力してまいります。
8	仕方なく閉じていくところにも、何か支援があると良い。	今後の施策の参考とさせていただきます。
9	「働き方改革の促進と人材の育成」について、人材の確保、育成だけでなく、指標に「定着」というものがあると良い。	(計画58ページ) ご意見を基に、計画に追記しました。

番号	意見	検討結果
10	大柱6「働き方改革の促進と人材の育成」について、人口が減少し、働き手が減っていく中で、副業・兼業を積極的に進めることが重要。	(計画 62 ページ) ご意見を基に、計画に追記しました。
11	その中で、就業規則など、副業先で労働者として保護されるのかということが課題となっている。	今後の施策の参考とさせていただきます。
12	副業、兼業については、時間があるから働くのではなく、無理のない勤務時間で、十分に生活していける待遇を受けるという視点も重要。	今後の施策の参考とさせていただきます。
13	価格転嫁については、従業員が業務評価のために安く仕入れようとする、という実態があるため、経営者には、取引先の価格転嫁を従業員が認められるような環境を作るという視点も必要。	(計画 9 ページ) ご意見を基に、計画に追記しました。
14	エ「原油・原材料価格の高騰」について、特に輸入業者に影響が大きいと、円安についても記載していただきたい。	(計画 8 ページ) ご意見を基に、計画に追記しました。
15	大柱5・中柱2「まちのにぎわいを創出する商業商店街の振興」について、KPIが目標を達成しているので、目標を引き上げてはどうか。	(計画 50 ページ) ご意見を基に、目標値を見直しました。

3 開業率、廃業率について

番号	意見	検討結果
1	開業を、会社を設立することという意味だけでとらえると目標達成は難しいかもしれないが、副業・兼業や、給与所得の他に収入を得ていることも含めて開業ととらえれば、開業の数は多いと思われる。	(計画 14 ページ) 注視すべき視点として計画に追記しました。
2	賃金を上げる、所得を増やす、GDPを増やすことを目指すのであれば、何を開業ととらえるか、ということを考える必要がある。	
3	個人事業主や士業は数字でとらえるのが難しい。	
4	起業支援をしているので、何か数字のとらえられるのではないかと。そうすると、開業という言葉にこだわらずに成果をとらえられるのではないかと。	
5	将来的に大企業になることをイメージすると、開業率、開廃業率の差といった指標を使うことになるが、今のデジタルな時代では開業のスタイルが変わって、開業しやすくなっている。そういう動きもとらえるのであれば、指標を考え直していく必要がある。	